

# 「地元でみかんをつくりたい」



宇都宮 晃仁 (24 歳) 新規学卒  
(西予市)

## 1 就農の動機・理由

父の農業に取り組む姿勢にあこがれ、私も同じように、大好きなみかんで生活していきたいと思い就農しました。

高校時代は就農しようか迷っていましたが、卒業後の進路を決める際に、昔から父の仕事を見ていて、自分自身も覚えていない保育園時代から「みかんをやりたい。」と言っていたこと、自分の身近な職業がみかん農家だったことから就農を決意し、2年間の研修期間を経て就農しました。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (2016年)	現在の経営 (2019年)	将来の経営 (2023年)
労働力	男 1 人(本人)	男 1 人(本人)	男 1 人(本人)
経営耕地	水田 a 畑 a 樹園地 162 a 計 162 a	水田 a 畑 a 樹園地 162 a 計 162 a	水田 a 畑 a 樹園地 162 a 計 162 a
経営内容	温州みかん 141 a 中晩柑 21 a	温州みかん 141 a 中晩柑 21 a	温州みかん 141 a 中晩柑 21 a

### ○農業用施設

農業用倉庫 (貸借) 1 棟  
マルドリ栽培システム 30 a

### ○主要農業機械

軽トラック 1 台  
エンジンポンプ 1 台  
草刈機 1 台

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県西予市明浜町

職歴 なし

就農研修歴

農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹研究所カンキツ研究興津拠点  
平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月

就農年月

親元就農 平成 28 年 4 月

一部継承しての独立

平成 28 年 8 月

### (2) 就農時の思い

今もそうですが、まだまだ勉強不足で、「知らない事は沢山ある物だ。」といつも感じています。

就農直後は、新しい人との付き合いやお金儲けのための農業を始めることに不安を感じていましたが、農業後継者の仲間や周りの人達に支えられながら頑張っています。

#### 4 就農時の取り組み

##### (1) 技術の習得

2年間の果樹研究所カンキツ研究興津拠点での研修により基本技術は習得できていましたが、気候や土壌条件が異なるため、父親や先輩農家にアドバイスしてもらっています。

J Aや青年農業者組織に加入し、各種研修会にも参加するようにしています。

##### (2) 資金の準備

親の経営を一部継承しての経営開始後は、農業次世代投資資金を受給しています。

マルドリ栽培システムの導入にあたっては、補助事業の利用と青年等就農資金の借入を行いました。

##### (3) 農地・住宅の確保

農地は、親の経営の一部を継承し、住宅は実家で生活しています。

##### (4) その他苦労したこと

平成30年7月の豪雨で園地の一部が被害を受けたことは、全くの想定外の出来事でした。

イノシシやカラスの被害にも悩まされています。

#### 5 農業経営の特徴

西予市明浜町は美味しいみかんが収穫できる地域ですが、特に、美味しいみかんを作ることにこだわっています。

温州みかんの栽培では、糖度が高くなる後期重点摘果を取り入れています。また、今年からマルドリ栽培システムを一部の園地に導入しました。

#### 6 これからの夢

新規に導入したマルドリの使用経験や知識が不足しているため、8,000 kg/10 a を目標に、色々試していこうと思います。

#### 7 成功したキーポイント

就農して4年、まだまだ成功とは言えませんが、周りに助けられながら頑張っています。

#### 8 就農を目指す方へのアドバイス

近年、後継者不足や耕作放棄地の拡大といった問題もありますが、逆に、農機具を安く手に入れることができたり、良い園地を手に入れるチャンスが増えたりと、就農し易い状況だと思っています。

大変なこともたくさんありますが、地道に規模拡大を目指して頑張りたいです。

#### ○指導機関からのひとこと

柑橘産地は農業者の高齢化により荒廃園地が年々拡大しています。色々な方と交流を持ち、情報を吸収し仲間たちと協力して、地域農業を活発にしていってほしいと考えています。

#### 執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室

西予農業指導班

電話番号 0894-62-0407



みかんの選果作業